

令和7年度 江戸川区立臨海小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎ 思いやりのある子 ○ よく考える子 ○ しょうぶな子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	今日が楽しく明日が待ち遠しい学校 思いやりのある子 よく考える子 しょうぶな子 人間性豊かで、優れた授業力があり子供から尊敬される教師
前年度までの本校の現状	成果 ○授業や行事を通して、互いを認め合う児童の姿が見られた。 ○特別支援コーディネーターや関係機関と連携し、個に応じた指導の充実が図れた。 ○連絡ツールやホームページの活用により、保護者との情報共有を円滑に進めることができた。 ○効率的に業務を進め指導の充実に時間を活用できるよう組織改革を行うことができた。	課題 ○自分も相手も思いやり、気持ちだけでなく行動で表すことができる児童の育成を目指す。 ○学力・体力の向上を進めていくため、分掌組織を活用した組織的な対応と研究・研修・OJTをうまく活用した指導力向上が必要である。 ○情報の発信の仕方をさらに工夫し、保護者・地域との協力を強める。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学力調査の活用	○全国・区の学力調査を活用し、指導方法の工夫改善を図る。	区の学力調査において、正答率1学期比10%向上をめざす。	50%	50%	C	4年生は3ポイント減、5年生はわずかに上昇した。少人数指導を活かして苦手領域の復習を行っていく。	C	学力向上にさらに取り組んでほしい。	C	4年生は3.9ポイント減、5年生は7.6ポイント減となった。苦手分野をさらに分析し、改善していく。	B	結果がHPに公開され、内容の確認ができた。今後も向上に向けて取り組んでほしい。	今年度内に分析をすすめ、苦手な領域について、授業で取り上げていく。次年度も少人数指導を効果的に行う。
		○学校と民間企業による放課後補習教室の実施	2~6年について、個別の支援を行い、基礎学力の向上を目指す。	70%	80%	B	補習教室は予定通り実施しているので、今後も継続していく。	B		B	計画的に実施できた。来年度も効果的に実施していく。	A	まずどの学級も落ち着いていて、さらに個別支援の実施は評価したい。	企業と綿密に連携し、計画実行していく。
		○読書科の更なる充実	○学校図書館の活用が活発になるよう、図書館司書及び図書ボランティアとの連携を強める。	月1回、図書館司書と図書ボランティアの情報を司書教諭を通して共有する。	90%	90%	A	蔵書管理の電子化が完了し、司書と司書教諭で連携して貸出等行うことができています。	B	図書館の利用がさらに増えるように工夫してほしい。	A	司書やボランティアと円滑に連携することができた。電子化し、管理もしやすくなったので、来年度はさらに効果的に活用していく。	A	電子化したことで、管理がしやすくなって良い。
体力の向上	○個の実態に応じた運動意欲や基礎体力の向上	○新体力テストを活用して個の実態把握を行い、体育の授業内容に反映する。	新体力テスト実施後、児童一人一人の体力の現状及び学級の実態を把握し、授業改善を行う。	70%	80%	C	学校の傾向を分析したが、猛暑の影響もあり、思うように授業に生かしていない。今後さらに工夫した授業展開を考えていく。	B	今後さらに体力が向上するような取組を行ってほしい。	B	分析したことを授業に取り入れて指導した。学校全体として苦手な領域もあるので、全校体制で取り組んでいく。	B		体力向上部を中心に、投力と持久力に重点を置いた取り組みを全校で行う。
		○年間通して行うなわ跳びチャレンジウィークなどの体育的行事を通して、運動の日常化・習慣化を目指す。	各体育的行事において、児童の運動意欲を高められるよう学習カードなどを工夫する。	70%	80%	B	今年度はカードの振り回り部分を工夫し意欲を高められるよう取り組んでいる。ただし、気温が高いため、なわとびの実施が中止になることもあったため、時期を変更していく。	B		B	なわとびの実施時期を変更して行ったが、児童が意欲的に取り組み、楽しみながら跳び姿が多く見られた。	A	なわとびの取組が楽しかったと聞いているので、来年度も継続してほしい。	各研修に積極的に参加し、取組など情報を手に入れ参考にす。体力向上部を中心に運動の習慣化を目指す。
			各学習カードについて、児童の目標達成率90%以上を目指す。	70%	90%	B	学習カードを活用し、意欲的に取り組んでいる児童が多い。	B		A	体育で学習カードを効果的に活用することができた。特に持久走のカードを活用したことで、休み時間に自主的に取り組む児童が多かった。	A		体力向上部を中心に、学習カードの検討を行い、効果的に活用する。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○個に応じた指導の充実	○校内特別支援部を中心に教員及び児童に向けた理解推進教育を進める。	毎月の校内特別支援部の中で具体的事例をもとにこの特性に応じた指導方法の開発・共有を図る。	70%	80%	B	巡回心理士や専門員と連携し、特性の理解を深め、指導方法を検討している。	C	学校内のことで内容が分かりづらいので、もっと発信してほしい。	B	巡回心理士や専門員とは円滑に連携し、指導に生かすことができた。特別支援について、全体でより共有する必要がある。	A	教員間での経験、知識共有が手厚く感じられ、特性に応じたケアなどの配慮がみられる。	情報共有など特別支援部内だけでなく、全教員が把握できる場を設定する。
		○エンカレッジの活用	4月中にエンカレッジ対応のシフトを作成し、学級担任が依頼しやすい環境を整備する。	70%	90%	B	作成したシフト通りに実施することができているので、継続していく。	C	学校内のことで内容が分かりづらいので、もっと発信してほしい。	A	エンカレッジを利用しやすくなるよう環境を整えた。シフトについてはより良く工夫していく必要がある。	B	個に応じた指導を実践していることは知っているが、詳細についてはよく分からない。	特別支援部を中心に、無理のないシフトを検討し、エンカレッジサポーターも効果的に活用する。
		○交流および共同学習の充実	特別支援学校との副籍交流やかもめ学級と通常の学級の交流および共同学習を行い、月1回程度交流の様子を発信する。	60%	70%	C	かもめ学級児童が通常学級の学習に参加し、交流を深めているが、発信があまりできていない。副籍児童とも学校だよりを通じて交流のみなので、検討していく。	C	学校内のことで内容が分かりづらいので、もっと発信してほしい。	B	副籍児童との交流や学校だよりのみだった。より効果的で実現可能な方法を検討していく。	B		交流学習は引き続き計画し、副籍交流については、相手校と連携し取組を工夫する。
不登校・いじめ対応の充実	○思いやりのある子の育成	○学校・学年・学級それぞれで役割分担し、日常の様々な場面で思いやりのある子の育成を目指す。	毎週の校長講話を活用し、子供同士が「違い」を尊重し、安心して過ごせる学校を目指す。	90%	90%	A	学校全体で思いやりのある行動を称賛し、意識して過ごす児童が増えてきた。	B		A	年間を通して児童が思いやりを意識して行動することができた。教員も意識して指導することができた。	A	年間を通じて「優しい」を問いかけ、考える機会が多かった。行動で表す児童もあり、児童の心に根付いているのを実感する。	生活指導部を中心に、声掛けの仕方や、指導の仕方を確認する。
		○L-GATEの活用	OL-GATEを活用した児童の実態把握及び学級・学年運営への活用推進	70%	80%	B	L-GATEを日々活用しているが、質問事項についてはよりよくなるよう今後も検討していく。	C	学校内のことで内容が分かりづらいので、もっと発信してほしい。	B	児童の変化については、日頃の関わりをメインとし、L-GATEを補足的な役割として活用することができた。	C	学校で行っている取組を発信してもらえると、どんなことをしているか知ることができる。	生活指導部で質問事項について検討する。情報部とも連携し、校内研修も行う。
		○教育相談の強化	○区教委より示されたSSWの役割に基づき、SCとの連携を図ったより有効な運用を行う。	4月中にSSWの校内での役割について配置されたSSWと確認し、要対応児童について情報共有を行う。	90%	90%	A	SSWとSCと情報を共有し、それぞれの役割を明確にしている。今後も連携して対応していく。	C	学校内のことで内容が分かりづらいので、もっと発信してほしい。	A	SSWやSCと情報共有を積極的に行い、連携することができた。対応についても効果を発揮する場面があった。	C	
学校	○学校ホームページ及び保護者連絡ツールの活用	○学校ホームページの充実を図り、地域・家庭との情報共有を密にすることで教育効果の向上を図る。	すべての学年について週に1度は学習の様子を発信する。	90%	90%	A	学習や行事の様子を日常的に更新して発信することができている。	A	ホームページに子どもの様子が載せてあるので良い。	A	年間を通して学習や行事の様子をホームページで発信することができた。	A	日々の動きが投稿されており、充実度は高いと感じる。	各学期に情報部がホームページの内容について確認し、適正な運用・更新を行う。

(園) 地域社会に開かれた実現		○保護者連絡ツールにおいて、写真などを有効に活用して児童の活動の様子を伝える。	学級だよりや毎月の学年だより、学習の様子がより伝わるよう児童の表情がわかる写真を入れる。	90%	90%	A	どの学級も学級だよりを配信し、より児童の様子が伝わるように知らせることができている。	A	配信が多く、状況がよくわかる。	A	連絡ツールを効果的に活用し、各学級が児童の様子を定期的に保護者に伝えることができた。	A	連絡ツールがあることで、学級ごとに配信され、学級の様子を詳しく知ることができた。	連絡ツールで配信する際にダブルチェックを行い、適正に配信していく。
	○学校関係者評価の充実	○児童・保護者・地域へのアンケート調査を実施し、結果をふまえた成果と課題を発信する。	12月までに児童・保護者・地域それぞれに対してアンケートを行い、分析する。	/	70%	/	9月時点ではまだ未実施である。12月に向けて準備を進めていく。	/		B	アンケートの結果を参考にし、次年度に向けた計画を立てることができた。	B		アンケートの内容が適切か検討し、より効果的に実施する。
教育の特色ある展開	○指導力の向上	○若手主体の研修・OJTにより教員個々の実態に応じた指導力向上を図る。	年7回以上の若手研・情報研を実施する。	90%	90%	A	9月末までに若手研5回、情報研4回実施している。若手研も各回の反省を次に生かして取り組むことができている。	C	学校内のことで内容が分かりづらいので、もっと発信してほしい。	A	2月末までに若手研10回、情報研7回実施した。学んだことをすぐ授業に生かすことができた。	C	学校内のことなので、どんなことをしているのか分かりづらい。	今年度の反省をもとに、次年度の計画を立て実行する。保護者にも可能な限り発信する。
	○効率的な学校運営	○学校運営組織の改善を図る。	2か月に1回程度、組織運営の様子について企画委員会で確認し、改善策の検討を行う。	60%	70%	C	協議については企画委員会ではなく、管理職と教務との話し合いにとどまることが多い。2学期から企画委員会に若手教員も交替で参加しているので、意見を取り入れていく。	/		B	企画委員会に若手教員も参加したことで、組織としての意識を高められた。その他での意見を伝えられる場の工夫が必要である。	B		全体に組織としての意識を啓発するとともに、主幹教諭と管理職が常時話し合っていく。
	○教職員のワークライフバランスの充実	○一斉退勤日を活用し、教職員の業務マネジメント意識の向上とプライベートタイムの充実を図る。	月1回の一斉退勤日を見通した校務遂行の奨励し、時間外勤務35時間以上の教職員0を目指す。	60%	80%	C	35時間以上の時間外勤務が6月までは10名前後となっている。7月になり3名に減ったので、個別に声をかけていく。	/		B	2月末時点で時間外勤務平均35時間以上の教員は1名だった。ただし、時間外勤務が増える時期もあり、今後も改善は必要である。	A	メンタルの不調で学校を離れる教員がいなかった点は、非常に評価したい。	一斉退勤日を確実に実行し、時間外勤務が多い職員には個別に声をかけていく。